

序

河島一仁先生には、2021年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生のこれまでの御功績を称え、そして深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

河島先生は、大阪府のご出身で、1979年に立命館大学文学部地理学科地理学専攻をご卒業後、同大学院文学研究科地理学専攻博士課程前期課程に進学され、修了後には同後期課程に進学されました。1984年3月には中途退学され、同年4月に本学文学部地理学専攻助手に着任されました。1989年4月に同助教授に、1999年に教授とされました。このように先生は、立命館大学文学部歴が37年に及び、学部の変革の歴史をもっとも経験されている教員のお一人といえるでしょう。

先生の研究領域は、歴史地理学に始まり、アイルランド研究にまで及びます。とくに、学部のホームページにありますように、鋤や鍬などの農具を起点にして、それに関わった鍛冶屋や農民に着目し、それらの人々の生業や生活に関する研究に取り組まれてきました。また学外研究でイギリスにいらっしゃったと記憶しているのですが、ウェールズやアイルランドでも同じ農具に関する研究に取り組まれています。フィールドワークを大事にされており、電車に乗っている間も車窓を流れる景色をしっかりと観察することが研究者として重要だとお話しされたらと地理学専攻のご同僚からうかがったことがあります。

教育においてもたいへん熱心でいらっしゃいます。私が何年か前に4月初旬のある土曜日に学会出席のために京都市内の大学に出かけると、枝垂れ桜の美しい校舎の前で、何名かの学生を引率されている河島先生にばったりお会いしました。フィールドワーク中ということを引き、こちらは土曜日に大変だなと思ったのですが、先生は楽しそうに学生に建物の由来について説明されていました。

前述したとおり、河島先生の立命館歴は、たいへん長いです。その間、学内行政にも貢献されており、学生主事、そして何度も地理学専攻の、そして3年間在籍された京都学専攻の主任を務められています。変革の多い本学で、歴史ある専攻の運営はそれなりの困難がともないます。先生が主任の時に、私も英米文学専攻主任として主任会議をご一緒していましたが、主任会議では時折、厳しい発言をされ、ハッとさせられることもありました。専攻の代表として筋が通らないと思われたことは持ち帰れないというお気持ちだったのだと思いました。

河島先生は、地域研究学域地理学専攻において、教育・研究を通して数多くの優秀な教育者・研究者を育成されてきました。2021年4月からは、特任教授として、引き続き教鞭をとってくださることになっています。今後とも、立命館大学、文学部・文学研究科へのご鞭撻を賜うことができれば幸いです。

2021年3月

立命館大学文学部長・文学研究科長
中 川 優 子

